

「創発の会」15周年記念会合開催

—小林終身幹事・北城終身幹事による記念講演—

(2013年12月13日開催)



経済同友会では、入会后二年以内の会員に対し、経済同友会の理念と先達経営者の気概を伝承し、未来を担う経営者の識見拡大に資することを目的として、1999年1月より「創発の会」を設けている。発足から15周年を迎えることを記念し、新旧メンバーを対象に「創発の会（立石文雄座長）」15周年記念会合を開催した。会合では、元代表幹事の小林陽太郎終身幹事ならびに北城恪太郎終身幹事による記念講演会と交流会を実施し、出席者は100名を超えた。

■記念講演

講演1 テーマ：「日本のあり方を考える」

講師：小林 陽太郎 終身幹事
(国際大学 理事長)

講演2 テーマ：「経営者として学んだこと」

講師：北城 恪太郎 終身幹事
(日本アイ・ビー・エム 相談役)

創発の会は経済同友会の大きな特徴の一つ



小林 陽太郎
終身幹事

会合では、初めに小林終身幹事より、「日本のあり方を考える」と題した講演があった。自身の経済同友会活動を振り返り、「副代表幹事時代に就いた幾つかの委員長と、4年間の代表幹事時代は、私の企業人としての人生の中で、大変面白くやりがいがあった」と述べた。経済同友会は考え抜くのが

真骨頂であるという同氏は、創発の会は経済同友会の各委員会での議論を横断的に見て、「この方向でいいのか、もっと別の考え方もあるのではないかと、別の視点で深く議論ができる会」だとし、「創発の会というものができること自体が、経済同友会の大きな特徴の一つだと思う」と述べた。さらに「より良い日本にしたいという願いは、われわれの共通した思いであり、経済同友会の設立時の趣意書にもこの考えは明らかにされている」と語った。

リーダーの役割と責任を踏まえ 挑戦し続けることが大切



北城 恪太郎
終身幹事

続いて北城終身幹事より、「経営者として学んだこと」と題した講演があった。同期の中で最も遅く管理職に就いたエピソードを交えながら、「この仕事に何が必要かと考えれば、

次々とアイデアが出るはず。失敗を恐れず、挑戦し続ける勇気を持つことが大切」と述べた。

リーダーの役割については、「リーダーは、ビジョンを示し目標を明らかにする、どのようにビジョンを実現するかの具体像を示す、常に評価して問題があれば軌道修正することが重要である」とした。「リーダーの^{かつ}高い倫理観と情熱が経営を支える」と述べ、「自由闊達で人々が生き活きと働く職場が成果を挙げる。『明るく、楽しく、前向きに』を言い続けてきた」と自らのリーダーシップ・スタイルを語り、講演を締めくくった。



記念講演の後、引き続き行われた交流会では、初めに立石文雄座長(6代目)が、「創発の会」設立当初から現在までの変遷を「15年の軌跡」として、当時の特徴的なトピックスも交えながらスライドを用いて紹介した。続いて、小山眞一元座長(2代目)、斎藤敏一元座長(4代目)より挨拶があった。15周年記念会合は、新旧メンバーが交流を深める良い機会となった。

